

伝えておきたい戦争体験



「日の丸寄せ書き」
昭和館蔵



「千人針」
昭和館蔵

「夕焼け」与勇輝
＜昭和・メモリアル＞
より

わたしの 八月十五日展

2012 9/22 [土・祝] - 10/20 [土]

桐蔭学園メモリアルアカデミウム ソフォスホール

■開館時間 10:30-17:30 (入館は17:00まで) ■休館日 日・祝 (ただし9/22,23は開館、9/25,26は休館)

※9/22,23は学園祭開催のため、開館時間が9:30-16:30 (入館は16:00まで)となります。

■主催 学校法人桐蔭学園 ■入場無料

■協力 昭和館、横浜市史資料室、日本郵船歴史博物館、根本圭助、松本徽章工業、日本漫画事務局「八月十五日の会」、彩鳳堂画廊、クレヴィス

■写真協力 木村尚子、田沼武能、土門拳記念館、予科練平和記念館

■協賛 共立、京浜警備保障、サクラ、清水建設、千代田ビル管財、三友、有隣堂、横浜銀行

お問い合わせ先：桐蔭学園メモリアルアカデミウム 神奈川県横浜市青葉区鉄町 1614 TEL.045-975-2100 <http://www.cc.toin.ac.jp/MA/>

バスでのご来場をお願い申し上げます。

東急田園都市線 市が尾・青葉台各駅、または小田急線柿生駅から桐蔭学園行きバスで約15分



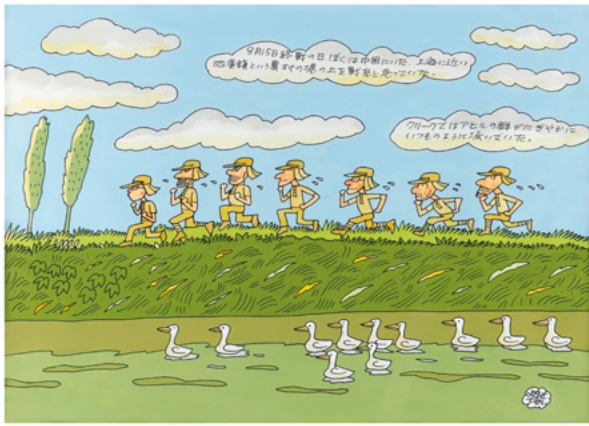
「児童が描いた戦時画」
横浜市史資料室蔵



MEMORIAL ACADEMIUM



「助かった」水木しげる(複製) ©水木プロ



「無風地帯」©やなせたかし(複製)

「伝えておきたい戦争体験 わたしの八月十五日展」開催にあたって

桐蔭学園理事長 平岩敬一

1945年8月15日。日本の敗戦がラジオで放送された日から67年の歳月が流れました。太平洋戦争の体験者が人口の約二割まで減少している現在、平成生まれの子どもたちにとって、戦争は授業で習い、また、書物や映像の中で知る昔ばなしのような出来事と捉えられていることも多いのではないのでしょうか。しかし、実際に戦争を体験した人々には、数十年前のことであっても、決して忘れることのできない凄惨な出来事として鮮明に記憶に刻まれています。

「伝えておきたい戦争体験 わたしの八月十五日展」は、語り継がれていくべき戦争体験を軸にさまざまな資料とともに構成した展覧会企画です。

当時着用されていた国民服や、戦地に赴く兵士たちが持参した千人針などのお守り、女子学生が書き綴った日記、戦意を高揚する少年雑誌、空襲で罹災した幼児の死亡証明書などの実物資料、また、戦争を経験した漫画家・作家たちがそれぞれの「八月十五日」を描きつづった体験記、人形作家が記憶をたどった戦時の光景、銃後の生活をとりえた写真パネルなどを展示しています。

戦時下にあった人々の営みを生々しく伝えるこれらの貴重な資料や作品を通して、未来を担う子どもたちや若い世代に「戦争体験」を伝え引き継ぎ、二度と再び悲惨な戦争を起こしてはいけないという決意を新たにしていくことは、先人から与えられた私たちの責務でもあるといえるでしょう。

本展が、平和の尊さを改めて感じ、戦争について深く考えるきっかけとなることを願います。

開催にあたり、昭和館、横浜市史資料室をはじめ、多大なるご協力を賜りました所蔵機関ならびに関係各位に厚く御礼を申し上げます。



「小学生の軍事訓練」横浜市史資料室蔵



「焼夷弾筒」
横浜市史資料室蔵

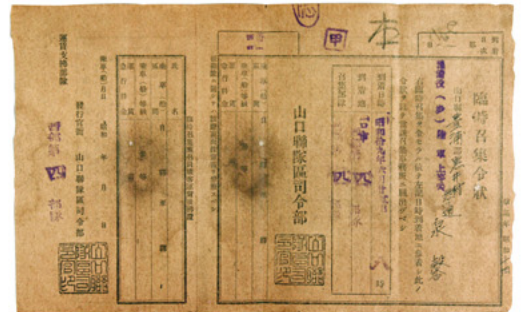


「興亜双六」横浜市史資料室蔵



「少年倶楽部」昭和20年7月号
個人蔵

伝えておきたい戦争体験 わたしの 八月十五日展



「臨時召集令状」昭和館蔵(複製)



各駅からのバスのご案内
・東急田園都市線 青葉台駅よりバス「桐蔭学園前」行、終点。または「市が尾駅」行、「桐蔭学園前」下車
・東急田園都市線 市が尾駅よりバス「桐蔭学園前」行、終点。または「青葉台駅」行、「桐蔭学園前」下車。または「柿生駅北口」行、「桐蔭学園前」下車
・小田急線 柿生駅よりバス「桐蔭学園」行、終点。または「市が尾駅」行、「桐蔭学園前」下車

タクシーの場合
東急田園都市線 青葉台駅、または小田急線 柿生駅から便利です。行き先は「桐蔭学園駅(くろがね)神社前」とお伝えください。
※駐車場はございませんので、お車での来場はご遠慮ください。